

今村力三郎 いまむらたけ さぶろう 辯護士。慶應二年五月、二百信濃國飯田生れ、昭和二十九年八月十一日歿（八六六―九五五）。舊姓蜂谷。號徹堂。専修學校法律科卒。長野、前橋等の裁判所判事を經く、明治二十一年辯護士開業。足尾銅毒事件、白比谷盛徳事件、大逆事件、難波事件、帝人事件等多くの著名事件を擔當、一貫して捜査機關の行過ぎを批判し、人権擁護を離れず辯護士の任務への姿勢を貫いた。昭和二十一年専修大學總長就任。

著書に『獨言』（大正十五年刊）、『帝人事件辯論』（昭和十二年一月）『白金一雄編刊』、『法廷五十年』（昭和二十二年十一月）『二十日專修大學』等。專修大學総長今村先生追憶会『今村力三郎翁追憶録』（昭和二十五年六月）『二百專修大學』刊。

